

小児リハビリテーションの取り組みについて

リハビリテーション室 室長 宮田 有佳

リハビリテーション室では、発達に心配のあるお子さんへのリハビリの提供や、イベントの開催を行っています。

リハビリを提供しているお子さんの困ったこと、苦手なこととして、以下のことがよく挙げられます。

- ①落ち着きがなく集中力がない
- ②大きな音や触られることを嫌がるなど感覚の過敏さ
- ③体の痛み気付かない感覚の鈍さがある
- ④跳び箱が飛べない、紐結びや箸の使い方など細かい運動が苦手
- ⑤ことばの遅れがある
- ⑥友達と上手に遊べず、言いたいことが言えないなど対人関係のぎこちなさがある
- ⑦気持ちの切り替えが出来ず、自分の行動をうまくコントロールできない

これらのことがあると、「運動が苦手で体育が嫌だ」、「ノートが書けず、授業についていけない」といった日常生活での困難な場面に遭遇し、色々な活動に失敗することが多くなります。周りからは甘えている、怠けているといった見方をされてしまい、その結果、自信がなくなり消極的になる、また逆に投げやりになるなどの二次障害に繋がる恐れがあります。

そのようなお子さんに対し、こどもが楽しめるような要素を取り入れながら、日常生活動作、感覚面、学習面、社会生活、運動などの発達のサポートを行っています。トランポリン、ぬいぐるみ、お絵描き、ハサミなどの遊びや道具を使いながら、自身の身体や感覚、道具の使い方などを学べます。

また医師、臨床心理士、作業療法士による小学生を対象としたコグトレイベントも開催しています。今までの取り組みとして、少林寺拳法体験、七夕飾り作り、夏祭り、運動会などを開催しており、診療に結び付いたお子さんもいらっしゃいます。

発達障害があるこどもへの援助は、それぞれの子どもの特性や環境に合わせて行うことがポイントです。症状もそれぞれ異なり、こどもの性格や好みも千差万別です。そういった特性をきちんと見極めて、一人一人にあった支援を行う必要があります。こども本人や保護者との面談や観察から評価を行い、得られた情報から問題の原因や支援方法を考えていきます。そしてサポートや環境調整を行い、その結果をふまえて必要に応じて支援の方法を再検討し、改善をしていくことが大切です。本人や保護者の気持ちに寄り添い、それぞれのお子さんに合わせた支援方法を、今後も提案していきたいと思えます。

